

天理ラグビーの意気高く

全国大会へ大学、高校、中学が出場

今シーズン大学、高校、中学のラグビー部はそろつて好成績をおさめ、それぞれ全国大会に堂々優勝候補として出場する。輝かしい伝統を誇るラグビー王国天理は久しぶりのわかえり、優勝ムードにひたるファン喜びは早くも大会に突入している。

また、関西大学Bリーグで善戦健闘している天理大は、同リーグの強豪近畿大を破つてほぼ優勝を決め、完全優勝とともに、念願の同志社、関大、関学ら、古豪あひひしめく関西大学Aリーグ入りが濃厚となつた。

【大学】

北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、北九州、南九州の各ブロック代表8大学によつて争われる第十三回全国

大学ラグビー・フットボール大会は、名古屋の瑞穂球技場で一月二・四・六の三日間にわたつて行なわれるが、天大が出場するのは十回大会以来一度目。この大会の県予選は不戦勝で勝ち進み、去月二十五日に近畿ブロック大会第一戦（花園ラグビー場）で宿敵近畿大（大阪）と対戦、試合は追いつ追われつ接戦となつたが14-6で辛勝、決勝戦は、さる二日、西宮球場で姫路工大（兵庫）との間で行ない、フオワード、バックスともよく動き31-3の大差で破り、ここに全国大会二度目の出場をなした。

チーム力は年々向上しているが、今年の特長は特に守りに強く、各試合を見ても失点が少なく、苦戦した神戸商船大のほかは全部0点もしくは10点以下におさえられている。今春から研究熱心な角田監督（旧姓増田、天高一近鉄一現天大補道部勤務）を迎えてますます磨きがかかつている。一方、さる九月十二日から関西大学Bリーグ十大学で争つている関西大学Aリーグ昇格戦に全勝している天大は、十一月十六日の大阪経大戦に勝てば全勝、完全優勝となり関西大学Aリーグ入りが実現、来シーズンからは同志社、関大、関学、甲南、京大、立命の各大学とホコを交える。角田監督は今シーズンを顧みて「あくまでもAリーグ入りを目録に練習を重ねてきた。現在天大の実力はAリーグの中堅にあると思う。念願がかなえば皆様の期待にそつう常に前進する」と抱負を語つた。昭和初期に土佐敏敏氏（表紙）橋

本武氏（本部准員）らが同志社、京大を相手に互角に闘つてきつた天大ラグビーの黄金時代が、再度おとされる日も近い。